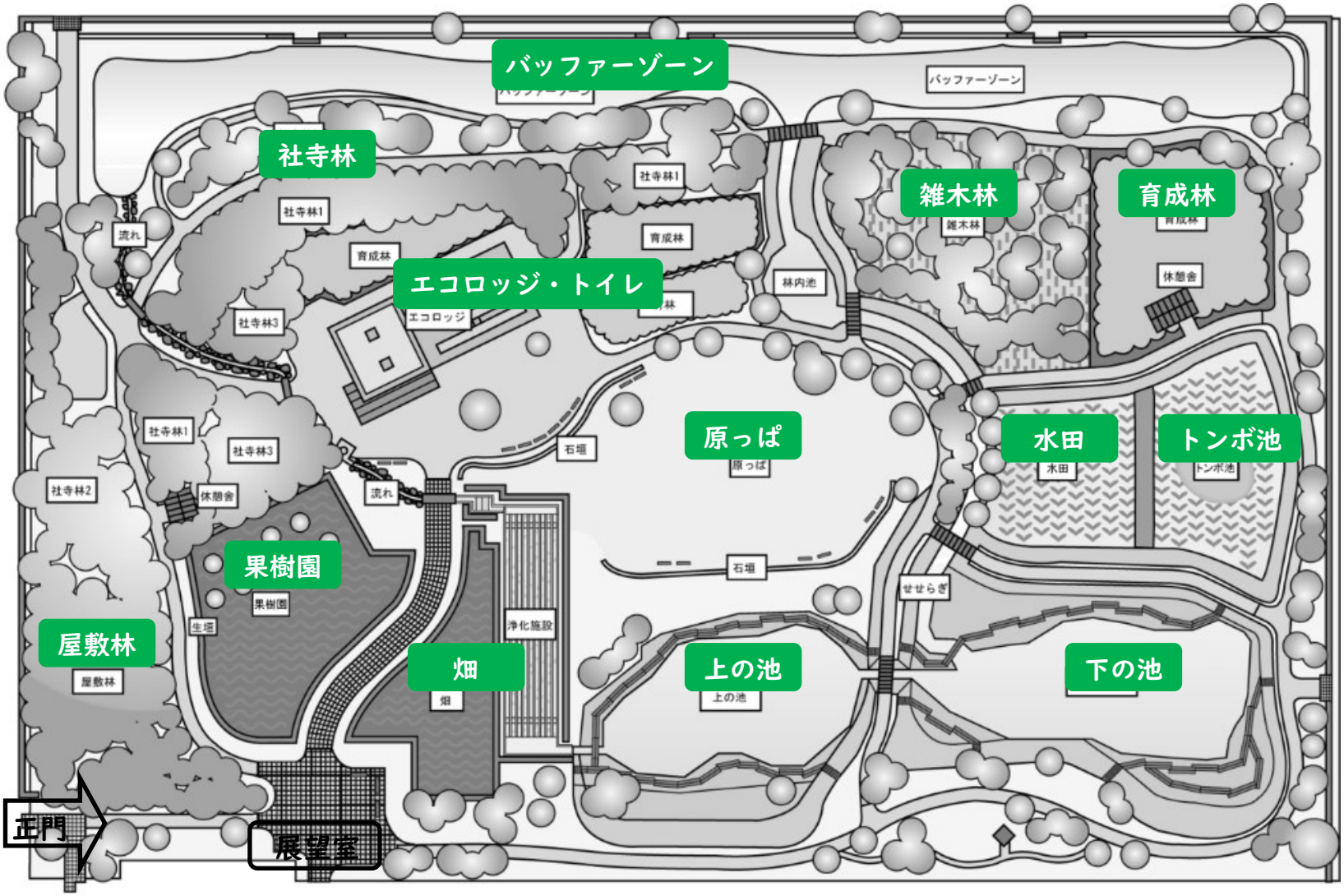
生態園マップ～2021冬編～

季節のできごと：バッファーゾーンや下の池のアシの付近では、仲良く並んでお散歩や、泳いでいるカルガモの親子の姿がみられます。

当センターの樹木医が、林の中が暗くなったり、樹木に害虫が侵入しないよう樹木の成長が止まる秋から冬にかけて枝打ち（枝切り）を行っています。これにより「冬の木洩れ日」がより一層感じられます。



ハンノキ

夏　　冬

ハンノキは湿地や湿原などで生育する、高さ10～20mになる落葉高木です。生態園には、ハンノキがたくさん植えられています。これは、埼玉県の蝶であるミドリシジミをよぶためです。ミドリシジミの幼虫は、ハンノキの葉を食べて成長します。ハンノキは、関東地方では田んぼの境を示す目印や、収穫後のイネを干すはざ掛け用として植えられていましたが、水田や沼地が減ったことで、ハンノキも減り、ミドリシジミの数も少なくなってしまいました。

ＣＥＳＳチャンネル（Youtube）

生態園についても配信中

冬に熟す実

冬は赤く熟す実が多い季節です。生態園では「ヤブコウジ」「イノバラ」「シロダモ」「クロガネモチ」「アオキ」などが見られます。

ヤブコウジ

生態園の社寺林ゾーンでは、ヤブコウジが赤い実を付けます。

同じく冬に赤い実を付ける常緑低木のセンリョウ（千両）やマンリョウ（万両）に対し、樹高が10～20cm程で実の数も少ないヤブコウジは、「ジュウリョウ（十両）」とも呼ばれます。

アオキ

生態園の入口から屋敷林ゾーンを中心に見ることができるアオキ。実は12月頃から熟し始め、赤くなります。

鳥の餌が少なくなる冬、アオキの赤い実は一際目立ち、ヒヨドリやツグミなど鳥たちの餌となりますが、種子を鳥に運んでもらうという戦略もあります。

たくさんの鳥

生態園にはたくさんの鳥がやってきます。鳴き声が聴こえたら、ちょっと立ち止まって、空や樹木を見渡してみませんか。

モズ（百舌鳥）

モズはムクドリくらいの大きさで、県内でも農村部などでは普通に見られます。獲物を小枝などに刺す習性もあり「モズの早贄」と呼ばれ、生態園のカラタチの枝でも、冬の間、時折見られます。

コゲラ

国内では最も小さなキツツキの仲間。冬の時期は、シジュウカラなどのカラ類と行動を共にしています。「ギー、ギー」という鳴き声が聴こえたら、近くの樹木に止まっているはずです。

シジュウカラ（四十雀）

黒のネクタイがトレードマークのカラ類。繁殖期には樹木の上でさえずっていることが多いのですが、冬の間は枯れたヨシの中に隠れている虫を食べるため、生態園では、池の周りのヨシ原で見かけることが多いです。